

特にオペレーションズ・リサーチは、2年次の必修科目（4単位）であり、システム設計を行なう上で重要な役割をもっており、その内容は、ひとつおりの手法の解

説とその応用性に重点をおいております。また本学科のOR学会員は、社会システムや産業システムに関する研究を行なっております。（定方 希夫）

流通経済大学 経済学部 経営学科

常磐線佐貫駅からスクールバスで約10分、竜ヶ崎市の丘の上に流通経済大学がある。昭和40年、日本通運(株)をはじめとする産業界の支援を受けて設立され、流通経済を中心とする研究教育機関としてユニークな特色をもつ。

現在は、経済学部2学科の単科大学であるが、昭和63年に社会学部の増設を予定している。

経済学部経営学科では、経営学、会計学という学科固有の領域はもとより、それ以外に、流通、情報関係科目を2本の柱として置き、本学付属の流通問題研究所、情報処理センターの協力のもとに研究、教育を進めている。おもな流通、情報関係科目には、次のようなものがある。

(流通)

流通概論……2年次

流通経済総論、物的流通論、交通計画論 海運論、倉庫論、貿易論、保険論、広告論 市場調査論、国際物流論、商店街再開発論 流通情報システム論、宅配論、商業英語	} 3年次 4年次
--	--------------

(情報)

コンピュータ科学、プログラミング実習Ⅰ……1年次

プログラミング実習Ⅱ……2年次

情報処理論、事務情報管理論 } 3年、4年次
オペレーションズ・リサーチ

このように、流通経済という校名にふさわしいユニークな流通関係科目が開講されている。したがって、スタッフの中には実務経験豊富な産業界からの研究者も多く、研究、教育の両面で刺激を与えている。

また、情報関係科目は、講義とともに演習に力を入れ、情報処理センターをフルに活用している。情報処理センターには、中型汎用コンピュータと35台の端末、そ

してパソコンが設置され、登録者はそれらを自由に使用できる。近年は、情報処理技術者試験をめざす学生が増え、センターではそのための指導も行なっている。

ORは、3年の選択必修科目として置かれ、毎年50人前後の受講者数がある。文科系で数学にそれほど強くない学生が多いので、講義では、理論の厳密な証明などは省き、各手法の考え方とその適用に重点を置いている。内容は、PERT/CPM、LP、待ち行列、物流・在庫などで、問題の処理にはコンピュータ（おもにパソコン）を積極的に利用している。たとえば、PERT (TIME, MANPOWER, CPM) では、作業の所要時間、人数などに各自の生年月日や学籍番号を用い、1人ずつ問題を変えてレポートさせている。学生はしくみを学ぶためには、はじめは手計算でやるが、提出日に各自パソコンに入力し、その出力結果とともに提出する。50人分のそれぞれの問題の採点の手間が省けるとともに、プログラミングのできない学生にとっては、パソコンでの答え合わせに目を輝かすことになる。

経営学科の専任スタッフは11人、学生数は1学年180名ほど、卒論が必修になっており、3年次から専門ゼミに入る。筆者の研究室の卒論テーマは、生産システムの設計、製造業の立地問題などが多いが、最近シミュレーションを用いる論文が増えつつある。

また、姉妹校である北京经济学院から助手クラスの教員が毎年交換留学生としてきており、おもに、流通、生産管理などをテーマに研究に励んでいる。そのまじめな勉学態度に日本の学生たちは目を丸くしているが、いい刺激にもなっている。（百合本 茂）

● お知らせ ●

OR学会のポスターができましたので、必要な方は学会事務局までお申し出ください。